

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

高崎市長 富岡 賢治

市町村名 (市町村コード)	高崎市 (10202)
地域名 (地域内農業集落名)	吉井地域 (多胡・高・上神保・下神保・上塩・下塩・東谷・大沢・大判地・小串・黒熊・深沢・中島 ・石神・西深沢・追辺野・松田・多比良中・谷・向平・馬庭・小暮・岩井・下奥平・中奥平 ・上奥平東・上奥平西・坂口・上岩崎・下岩崎)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和 8 年 9 月 14 日 (第 5 回)

注1：「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2：「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

現状、法人や認定農業者等が主な農地の受け手となっており、米麦や野菜、果樹等の作付けを行っている。課題として、吉井地域内の担い手の減少や高齢化が進んでいる。この為に将来的に遊休農地となり、農地の荒廃が予想され、個人の新規就農者に限らず企業や法人等の農業参入による遊休農地の活用が急がれる。

(2) 地域における農業の将来の在り方

今後も意欲的に営農している認定農業者や農業法人等が効率よく営農できるよう農地の集積を図っていくが、新たな担い手の確保が必要である。高齢化により耕作されない農地が増え、獣害も増加していることから、有効な対策を地域で検討していく。また、野菜については、ナスを中心に露地野菜や施設野菜を推進していく。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	971.4 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	971.4 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積) 【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方（範囲は、別添地図のとおり）

地域計画の範囲については、原則、農振農用地とする。

以下の農地を地域計画の区域から除くことについて、協議の場（令和8年9月14日開催）において確認した。

・吉井町小棚1189、吉井町小棚1190、吉井町小棚1191、吉井町神保1237、吉井町岩井402-1

以下の農地における営農型太陽光発電事業の実施について、協議の場（令和8年9月14日開催）において、地域計画の区域内の農地の効率的かつ総合的な利用に支障がないことを確認した。

・吉井町長根1215-1

注：区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積・集約化の方針 高齢化などを要因とした荒廃農地等の再生に積極的に取り組み、また、農地中間管理機構を活用することで荒廃農地の増加を防ぎ、認定農業者や認定新規就農者等の地域の中核となる担い手に対し、効率的な農地の集積・集約化を進める。さらに、高崎市農地情報登録も活用し、農業委員、農地利用最適化推進委員による相談・調整体制を維持していく。 地元及び関係機関が連携をし、地区内外から新規就農者等を受け入れていくために、相談体制・支援体制を整えていく。
(2) 農地中間管理機構の活用方針 担い手の高齢化が進んでおり、今後も経営規模を縮小または離農する農業者が増えてくると見込まれるため、農地の所有者の意向を踏まえた上で農地中間管理機構に貸し付けし、その農地を担い手に集積・集約していく。
(3) 基盤整備事業への取組方針 地区内の農地は、大型機械が使用できない小規模農地が多いため、作業効率が低い。畔の撤去等、地域の意向、担い手の意向を踏まえ、必要に応じて基盤整備事業に取り組み、農地の大区画化を図る。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針 市を中心に県及びＪＡと連携した就農相談体制を強化し、就農希望者の意向を踏まえながら研修計画や就農後の経営計画策定を支援する。また、研修先農家のリスト化など、新規就農者受入体制を整備し、露地野菜及び施設園芸、集落営農法人の担い手確保に努める。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針

以下任意記載事項（地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください）

☒ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農業	☒ ④畑地化・輸出等	☒ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①地元猟友会と連携し、有害鳥獣の捕獲・侵入防止柵による防除・周辺環境の整備を複合的に実施し、鳥獣による農作物被害の低減に努める。

②③④持続可能な地域を目指し、農業の省力・省エネ化及び担い手確保のため、スマート農業技術の導入を検討するとともに、減農薬・有機栽培などによる農作物の高付加価値化、高収益作物の栽培推進（畑地化）及び輸出等による販路拡大など地域の高収益化に向けた取組を検討していく。

⑤企業が大規模果樹経営を展開するため、荒廃農地の再生に取り組んでいる。果樹産地構造改革計画に即した果樹の優良品種への改植・新植や省力化に向けた園地整備を進め、担い手への集積を促す環境整備に努める。

⑦多面的機能支払交付金事業の実施を継続して、地域資源の保全管理を推進する。